



私の  
**なんとか  
しなきゃ!**

Vol. 23

## PROFILE

鹿児島県出身。1967年に三菱銀行(現・三菱東京UFJ銀行)入行。94年にニューヨーク支店長、取締役。96年に東京三菱銀行信託会社(NY)頭取。98年に日興アセットマネジメント副社長に就任。2002年に退任後、03年に国連環境計画(UNEP)金融イニシアチブ特別顧問に就任。現在、地方自治体アドバイザーや企業の社外役員を務めるほか、環境問題やサステナビリティ・CSR(企業の社会的責任)分野において、講演や執筆活動を精力的に行っている。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。



photo by Shinichi Kuno

環境に優しいビジネスを目指す

末吉 竹二郎

国際金融アナリスト

SUEYOSHI Takejira

今、私たちは認識しなくてはならないことがあります。7月には九州地方が記録的豪雨に襲われ、8月には全国至るところで猛暑日が続きました。これまで私たちは、こんなに過酷な夏を経験したことがあったでしょうか。そう、私たちが暮らすこの地球は、とても深刻な環境問題に直面しているのです。

私は長年にわたり金融業界に身を置いてきましたが、10年前までは、一般的に金融と環境は無縁だと考えられていました。しかし、それは違います。例えば、環境に負荷を与える事業を始めようとしている企業に対して、金融機関がお金を貸した場合、社会に与える影響はどうでしょうか。そもそも銀行のお金は、預金者のものであると同時に、社会のものであります。そう考えると、環境問題に対して金融が果たす役割は非常に大きい。ですから、私は金融と環境という2つのセクターをつなぐことで、環境問題の解決に貢献することができればと思い活動を続けてきました。

私たちが直面している環境問題は、

人間の経済活動の結果です。モノをつくり、販売し、消費することで、物質的には豊かになったかもしれませんが。実際に、私たちはそれを“幸せ”だと思い込んできました。しかしその裏側では、エネルギーや資源の大量消費という“負のコスト”を地球にかけてしまっています。地球の能力には限界があります。私たちは今、これから目指すべき未来の在り方を考え直す時に来ています。

2011年10月、私が座長を務めさせていただき、「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則」を取りまとめました。持続可能な社会に向けて、金融が果たすべき責任と役割を認識し、具体的な行動に移していこうというイニシアチブです。このように、金融機関も環境に配慮するようになったことは大きな進歩と言えるでしょう。

東日本大震災を経験した私たちは、モノの買い方や使い方、価値観が大きく変わりました。省エネや節水など消費者が動けば、どんな企業もその行動を無視することはできません。環境に配慮したスマートな消費者になること

で、社会に変化を生み出せる。消費活動こそ、一人一人がパワーを発揮できる最大の行動なのです。

日本人に足りないものがあるとすれば、それは国際的に物事を考える視点ではないでしょうか。日本がここまで発展できたのは、世界とのつながりがあったから。資源も市場も、大部分を海外に依存していることを忘れてはなりません。開発途上国を含め、世界が良くなって初めて日本も良くなる。だからこそ、この地球が置かれている状況を知り、世界と危機感を共有してほしいのです。

将来、たった一つの地球で暮らすすべての人が豊かさを感じながら生きていくためにはどうしたらいいか。その答えが今、求められています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。[なんとかしなきゃ.jp](http://www.nantokashinaky.jp)  
詳しくはこちらから→